

ミヤマキリシマに会いに行く！
阿蘇山・祖母山・久住山・由布岳

実施日 2019年5月17日(金)～21日(火)
天候 17日 曇／18日 雨／19日 雨・
強風/20日 雨～曇／21日 快晴

リーダー 涌井 良明

参加者 涌井良明、石附智江、中村友子、
徳山敬子、渡邊悦子、佐藤聡美、
宮崎敏男 計7名

費用 Air便23,980円 宿泊43,406円
レンタカー-11,199 合計78,585円

タイム 5/17 熊本空港(9:00～30車)草
千里P(10:50～11:10)烏
帽子岳(12:00～33・昼食)
草千里ヶ浜(13:00)草千
里P(13:15～30車)大観
峰(14:05～15:00車)休
暇村南阿蘇(16:20) 泊
5/18 休暇村南阿蘇(8:00車)
祖母山神原登山口(9:40～
10:30)高千穂峡(12:10～1
3:10)道の駅高千穂(14:0
0～14:30・昼食)国民宿舎
久住高原荘(16:00) 泊
5/19 久住高原荘(8:00車)長
者原P(8:30～55)山道入口
(9:18)林道・沢下降点(10:
23)待機引返し点(10:28～
38)林道・沢下降点(10:45
～11:20)長者原P(12:55～1
4:30車)久住高原コテー
ジ(15:15) 泊
5/20 久住高原コテージ(8:00車)
牧ノ戸峠登山口(8:35～
50)沓掛山(9:23)扇の鼻分
岐(10:07～13)久住避難小
屋(10:45～50)久住分かれ
(10:53)中岳分岐(11:06)久
住山(11:20～56・昼食)避難
小屋(12:20)星生山分岐(1

2:45)牧ノ戸峠登山口(14:1
5～14:30)湯布院温泉 黎明
(15:40) 泊

5/21 宿舎(8:00)由布岳正面登
山口(8:28～35)合野越(9:
12～15)マタエ(10:37～40)
由布岳西峰(11:00～10)マ
タエ(11:35)由布岳東峰
(11:52～12:15・昼食)マタ
エ(12:25)合野越(13:20～
30)由布岳正面登山口(14
:00～14:10)由布岳温泉(1
4:30～15:00)熊本空港(17;
20～19:05機)羽田空港(2
0:30・解散)

ミヤマキリシマに癒やされつつも、
降り続く雨、強風に悩まされ予想外の
出来事もあったりで予定通りの行程を
辿ることは出来なかったが、仕上げの
最後にはこれでもか！？と言うくらい
の青空で締めくくる歩きが出来たの
で、多分に消化不良の気分は否めない
が、kメンバー諸氏のまたイコー！今
度は秋に！の声に慰められている次第
です。

また九州の山へ行きたくなる、良さ
や大きさを改めて感じられる山行だっ
た。

5/17 曇 熊本空港からレンタカ
ー(ワゴン車)で初日は阿蘇へ、噴火警戒
レベルが2のため当初予定した中岳・
高岳へは登山道通行止めのため、阿蘇
五岳の烏帽子岳へ足慣らしの登山とな
った。



鮮やかな緑が広
がる草千里の駐
車場からスター
トだ。
週末ではあるが、
GW後、噴火情報
などの影響か？

人もクルマも少なめだ。

やや冷たく感じる風もあるが、ほぼ
正面に見える烏帽子岳に向かう。歩き

始めてすぐにミヤマキリシマのピンクが目につき始める、烏帽子岳にも多いとは聞いていたが短めの歩きながらも存分に楽しませてくれた道だった。



草千里の草原、烏帽子岳も背の低い灌木のため、展望とピンクを楽しみながらノンビリと登って行く。それ

でも気がつくとも草千里は足下の風景になっている。

阿蘇山火口からの立ち上る噴煙も生きている火山を感じさせてくれる。花を愛でながらやがて烏帽子岳に到着する、レレレッ！なんとつい今まで見えていた中岳・高岳はじめ周囲がガスに閉ざされてしまった(@_@)

それでも雨ではないので、風を避けつつランチに、と、合わせた様にガスも薄くなり再び眺望が開けてきた。



砂千里から続く荒涼とした雰囲気の中肌もクッキリだ。下山は草千里の西側に至る周回道を下り、途中から草千里ヶ浜を歩いて駐車場に戻った。

時間もあるので、阿蘇の展望台、大観峰へ寄ってみることにする。

車で30分程で大観峰へ、生憎低くなった雲で涅槃像の五岳はよく見えなかった、ザンネン！外国人の姿が多かった。

16時過ぎ宿の休暇村南阿蘇に着く。

五岳の根子岳のノコギリ歯を間近に望む快適な宿で、温泉浸かって初日を終えた。明日からは雨予報が続いている。

5/18 雨 しっかり降ってますねー！ 今日登れないかも…？

予定通り8時に宿を後にする。

大分県竹田市の祖母山北側の神原登山口に向かう、道はどんどん山奥に入

り込む様に進んでどん詰まりにこざっぱりした登山口駐車場が整備されていた。



先客は2台のレンタカーと佐世保から到着したご夫婦？と同着。しか～し！降り続く本降りの雨が山に登る意欲をスッカリ減退させてくれる。

同着のご夫婦は5分後に今日はダメと帰宅の途に。さて我々は…？

空身に傘で五合目を周回する山麓トレッキングコースを少し進んで、林道から登山道に変わる小沢で祖母山は次回に譲ることになった。(次回あるかなあ～？)

さて、どこ行こか？ 3県にまたがっているので、高千穂峡へ行ってみたい！との声があり、では、ということで山奥のマイナーな祖母山口から超有名観光地の高千穂峡に向かう。

此処高千穂峡も勿論しっかり雨が降っています、がさすがに人が多いが聞こえてくるのはやはり外国語が多い。



シンボルの真名井の滝や柱状節理と阿蘇の火山活動で創られた峡谷の遊歩道を散策、山の雨具で大助かりでした。

その後、道の駅で遅めのランチして宿に向かう。



今日の宿は国民宿舎九重高原荘、どこに泊まっても温泉なのは九州ならではでしょうか。山疲れもないので温泉、ビール、

ワインと元気に過ごして、明日は久住の山だーっ！ でも明日の久住の天気予報も雨・あめ・アメ……

5/19 雨 今日山中の宿法華院温泉泊なので雨でも歩きますよーっ！と勇んで出発したのですが…

8時半長者原ビクターセンターの駐車場着。降り続く雨と風もあるが、宿の温泉は歩かなければ着かない。本降りの中歩き始める。

林道を30分ほどで車止めゲートを過ぎてしばらくで、林道から登山道へ(林道行っても同じ)入る、水はけの良い火山灰の登山道も降り続く雨で小沢状態の箇所が多い、傾斜はそれほどきつくない、雨に打たれたミヤマキリシマもポツポツと見られるが、高くなるにつ



れ風の音が大きくなる、再び先程の林道に合流、かつての硫黄鉱山に近くむき出しの山肌側に崩落防止柵が設置されている箇所を過ぎると林道はピンクのロープが張られて通行止めになる。(右側岩に通行禁止の文字)道は左へ黄色マークに導かれて広めのガレ沢を渡り諏蛾守越峠へと登るのだが、しばらく進んだところでメンバーいない!の声に振り返るが確かに…あれーっ!どこ行ったー?!

雨は一定の強さで降り続き、時折強風が吹き付けて耐風姿勢が必要なくらいだ、このまま諏蛾守越峠まで登れるのか不安が一気がつる。

10分ほど待機するも遅れた?メンバーの合流はなく、このまま進むのは危険と判断、一旦林道まで引き返す。

岩陰に避難してもらい、2名で通行止め林道をしばらく硫黄山方面に辿るが、人影は見えず、強風に阻まれて進むのもままならず引返して待機班と合流、風雨の影響依る体調低下も心配のため、神隠しメンバーを心配しつつも長者原へ林道経由で下山することにした。ケータイで連絡を試みながらゆっくりと下る、その後やっと電話連絡がつく、やはり林道を辿って諏蛾守越の先にいるとのこと、既に法華院の方が近いようだが戻ってもらうことにした。連絡ついてヨカッタ!! 風はま

すます強くなっているようだ。13時前に長者原登山口に戻り着いた。30分ご後には全員復帰、車内で昼食をして、今夜の宿探しです。で、久住高原コテージを原確保、もちろん温泉しかも黒毛和牛焼き肉ディナー付きだ。15時過ぎにはチェックイン、眺望抜群(晴れてれば)露天風呂で暖まり、焼き肉とワインetc.で腹を満たしてウンウン満足。昨日から今日丸2日以上止まない雨が降り続けている。雨予報は明日午前中迄だが・・・。おやすみなさい。

5 / 20 雨のち曇 / にわか雨(豪雨)

小雨は降り続けているが、前2日よりはましかも?

今日は、牧ノ戸峠登山口から久住山本峰を往復することにした。標高差が少なくツアー登山や日帰りなどで最も利用されているコースでもある。8時に宿を後に昨日の長者原手前の牧ノ戸峠駐車場へ、峠のレストハウス脇が登山口となっている。弱い雨が降っているが風は弱く助かる。コンクリートで固められた登山道を登っていく。沓掛山付近まで遊歩道様は続き、その後は火山らしい岩が目立つ道になる、標高差の少ない道だけあって傾斜緩めで快適だ、雨もいつしか止み加減になり何とか山を歩いている雰囲気になってきた。扇ヶ鼻分岐で一息入れてガスで展望のないまま進み星生山分岐の先で少し下って広場にでると避難小



た。標高差が少なくツアー登山や日帰りなどで最も利用されているコースでもある。

8時に宿を後に昨日の長者原手前の牧ノ戸峠駐車場へ、峠のレストハウス脇が登山口となっている。弱い雨が降っているが風は弱く助かる。コンクリートで固められた登山道を登っていく。

沓掛山付近まで遊歩道様は続き、その後は火山らしい岩が目立つ道になる、標高差の少ない道だけあって傾斜緩めで快適だ、雨もいつしか止み加減になり何とか山を歩いている雰囲気になってきた。扇ヶ鼻分岐で一息入れてガスで展望のないまま進み星生山分岐の先で少し下って広場にでると避難小

た。標高差が少なくツアー登山や日帰りなどで最も利用されているコースでもある。

8時に宿を後に昨日の長者原手前の牧ノ戸峠駐車場へ、峠のレストハウス脇が登山口となっている。弱い雨が降っているが風は弱く助かる。コンクリートで固められた登山道を登っていく。



た。標高差が少なくツアー登山や日帰りなどで最も利用されているコースでもある。

屋がある。濃いガスで近づくまで小屋が分からなかった。

僅かに登ると久住分かれの分岐だ、昨日諏蛾守越からここへ出る予定だったのだが。本峰までは標高差150ほどだ、登りらしい

岩くずの道になるほどなく中岳への分岐を過ぎて登りすると久住山頂に着く。10人程の先客が休憩している



おり雨も今は上がっている、風を避けつつ昼食にした、山頂で食べられるとはラッキー!



展望は全くないが登れた心地よさを胸に下山だ、中岳は次回? 展望付きのお楽しみにして往路を戻ること

した。

登りよりも開花が進んだような久住山のミヤマキリシマに癒やされながらノンビリと下る、星生山分岐を過ぎる頃からはガスも切れ始め初めて久住の山並みをチラッとだが眺めることができた、その緑の鮮やかにははっとさせられる美しさだ。

更に点々とミヤマキリシマの彩りもあって今日はだいぶ満足度は高いです。



すね。牧ノ戸峠を後に湯布院温泉に向かうが途中からは怒濤のわか雨に遭遇、雨は断続的に宿に着くまで続いた。

4泊目も温泉に浸かって歩きの疲れを癒やす、宿からは明日登る雨上がりの由布岳の姿がでっかくハッキリと望める。予報も雲間の夕焼けも明日の好天を約束してくれているようだった。

5 / 21 快晴

部屋から見る由布岳は山頂付近に僅かに朝霧を纏っていた。天気予報は終日晴天を告げている。

今日も8時に宿を後にする、由布岳正面登山口までは15分ほどだ、平日にもかかわらず無料のPは既に満車に近いくらいだ。

登山口からは正面にドーンと見上げるように由布岳が『さあ! 登ってこい!!』と言わんばかりである。



草原のアプローチ道から山道に入ると樹林帯になるが傾斜はきつくない、ここも火山らしい岩ゴロの多い道である。

40分程で休憩丁度良い合野越(ごうやごえ)にでる。この先から山の傾斜はきつくなるが登山道はジグザグをつけて登るようになっており、急登の



感じはしない、また雨に洗われた緑の美しさも際だって天気に感謝。標高1,200ほどくらいで展望も開けてくる、

昨日までの分を取り返すがごとく圧倒的な眺望が開けてくる。昨日の久住山塊を挟んで湯布院の町や広がる田畑更に奥にはきれいな三角形に涌蓋山が見える。眺めに気が向いていると疲れも感じないようで、確実に高度が上がっていく、ジグザクが終わるとやや急登気味になるが苦しいほどではない。頭上に西峰が顔をチラチラからし

っかり見せるようになると東西の峰を分ける鞍部のマタエに登り着く。



左が△点のある西峰(1583)右が東峰(1580)で西峰には岩場もあり障子戸と呼ばれている。

では、まずその西峰に行こう。待機

を申告した一人を除いて6人で出発。最初の岩場だが全てロック・スタンス共しかりしている



ので高度感満点だがゆっくり確実に登降すれば大丈夫と感じた。(但し好天時に限る) 最初の岩場はマタエから直ぐなので注目度が高いが今日はそれほどギャラリーは多くない。

岩場その1を過ぎてこれだかなのかなと思っていると障子戸と呼ばれる岩場が見えてきた、そんなに簡単には登れないよ!と言われてしまったようだ。



岩場その2はやや斜めに直上する20センチくらいのルンゼ状を登り、岩場のハイライトの7~8センチのトラバース

になる、一見するとスタンスが無いように見えるが、落ち着けば脚の置場は見えてくる。

鎖伝いにトラバースごはゴジラの背びれのような岩尾根を乗越して、立岩の間を抜け短い栈道、気の抜けない垂直の岩と泥の段差を慎重に越して行く。山頂も近くなると歩きやすくなり意外と小広い西峰に出る。一等△点が設置され、展望はぐるりと申し分ない。

マタエを挟み直ぐの東峰をはじめ、鶴見岳、別府湾、久住、阿蘇、etc.

ひとしきり山頂を味わってから、マタエに下る、岩場は登り以上に慎重が必要だが、多少慣れたこともあつ



て難なく降りることができた。ぶいねー! タエから東峰を目指す、峰は岩もないので15分程で到着、山頂は西峰より狭い、丁度良いので東峰大展望台で気持ち良い昼食を摂る。



下山は往路をそのまま下ることにして、腰を上げる。帰路はあちこちに今は盛りのミ



ヤマキリシマが目についた晴天になって眠っていた花も一気に目覚めたようだった。14時駐車場に帰着、汗を流すべく日帰り温泉へ直行、さっと浴びてから熊本空港へ向かう。



大分自動車道から九州横断道を回って空港へはほぼ想定通りの時刻に帰着できた。これにて、長いようで短かった5日間の山旅もフィナーレである。

中2日は雨・風に悩まされたが結果的には体の疲労の積み重ねもなく、気持ち良い温泉と食事がありつけて個人的には何とも楽しめた山旅だったと思っている。

自主的に連日交代で会計を協力してくれた女性陣をはじめ、今回参加いただいた皆さん、お疲れ様でした&本当にありがとうございました。

山と温泉を楽しむ山旅、積み残した山と歩き残した山を訪ねる九州の山旅、また計画したら皆さん集まってくれますかあー!

(記&写真・涌井 良明)
(写真提供・宮崎 敏男)